

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年11月11日(月)～令和元年11月17日(日)〔令和元年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.03人と前週(3.27人)から増加し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.73人と前週(3.03人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.67人と前週(1.33人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



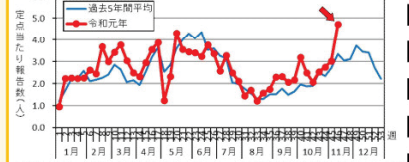
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱とともに咽頭炎などの症状を引き起こす細菌感染症で、主に春～初夏及び冬季に流行がみられます。川崎市においては、令和元年8月下旬以降、過去5年間平均と比べてやや高いレベルで推移していましたが、令和元年第46週(11月11日～11月17日)には定点当たり患者報告数が4.73人と前週(3.03人)から急増しました。特に宮前区、高津区、川崎区での報告が多くなっています。就学前後の小児の報告が多いため、集団施設などでの流行には注意しましょう。

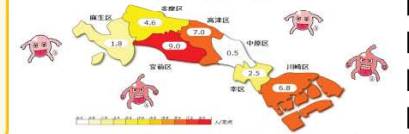
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

- 【感染経路】**
接触感染、飛沫感染
- 【潜伏期間】**
2～5日間
- 【主な症状】**
突然の発熱、全身倦怠感、咽頭炎・咽頭痛、
舌苔(イチゴのように赤くボツボツした状態)、
体や手足に小さくて紅い点状発疹など
※合併症としてリウマチ熱、急性糸球体腎炎などを引き起こすことがあります。
- 【治療】**
抗菌薬治療
※処方された薬は最後までしっかり飲むことが大切です。
- 【予防対策】**
患者との濃厚接触を避ける、手洗いなど

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況
—令和元年と過去5年間平均の比較—



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎分布マップ
—令和元年第46週—



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年11月18日(月)～令和元年11月24日(日)〔令和元年第47週〕の感染症発生状況

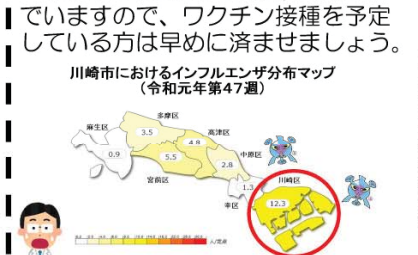
第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.24人と前週(5.03人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.48人と前週(2.67人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.62人と前週(4.73人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



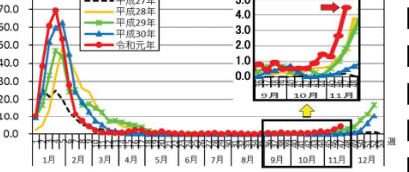
インフルエンザの報告数が増加中！～早めの予防対策を～

今年は、全国的に早い時期からインフルエンザの報告数が増加しています。川崎市においても、3週間前にインフルエンザの流行が開始となり、その後も報告数の増加がみられています。令和元年第47週(11月18日～11月24日)の定点当たり患者報告数は4.48人で、特に川崎区では定点当たり12.25人と流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を上回っています。また、本市のリアルタイムサーベイランスによると、11月中旬以降、A型インフルエンザの報告数が急増しています。市内の学校では学級閉鎖も相次いでいますので、ワクチン接種を予定している方は早めに済ませましょう。

川崎市におけるインフルエンザ分布マップ(令和元年第47週)



川崎市におけるインフルエンザ発生状況(5年間)



リアルタイムサーベイランス(A型・B型インフルエンザ)発生状況
—令和元年9月1日～令和元年11月26日—



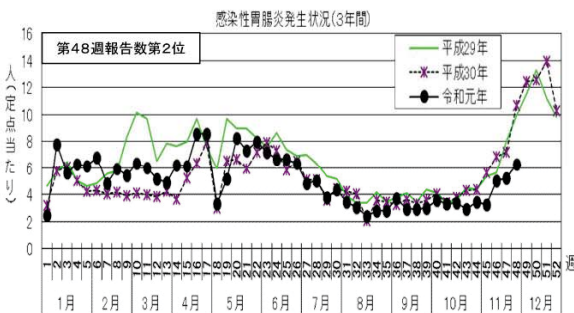
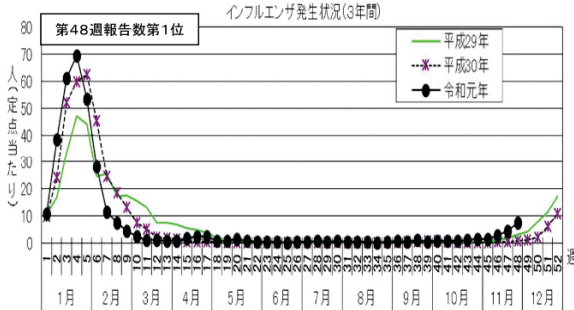
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年11月25日(月)～令和元年12月1日(日)〔令和元年第48週〕の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は7.36人と前週(4.48人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.30人と前週(5.24人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.05人と前週(3.62人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



急な高熱～咽頭結膜熱にも御注意ください！～

咽頭結膜熱はアデノウイルスを原因とする感染症で、夏だけでなく冬にも流行がみられます。

川崎市では、令和元年第48週(11月25日～12月1日)の定点当たり患者報告数が0.57人と前週から増加しており、過去5年間の平均と比べ、比較的高いレベルで推移しています。アデノウイルスは感染力が強く、飛沫や接触により感染します。特に保育園や幼稚園など集団生活の場では、手洗いやなどの予防対策を徹底し、タオルなどの共有を避けましょう。

咽頭結膜熱とは？

- 【感染経路】**
飛沫感染又は手指を介した接触感染(結膜あるいは上気道から感染)
- 【潜伏期間】**
5～7日間
- 【主な症状】**
突然の発熱(39℃前後)、喉の痛み、結膜充血、目の痛み、目やになど
- 【予防方法】**
 - ・流水や石鹸による手洗いを徹底する。
 - ・タオル類やおもちゃの共用は避ける。
 - ・プール利用前後にシャワーを浴びる。



アデノウイルスには多くの型があり、咽頭炎、扁桃炎、結膜炎、胃腸炎など様々な症状を引き起こします。

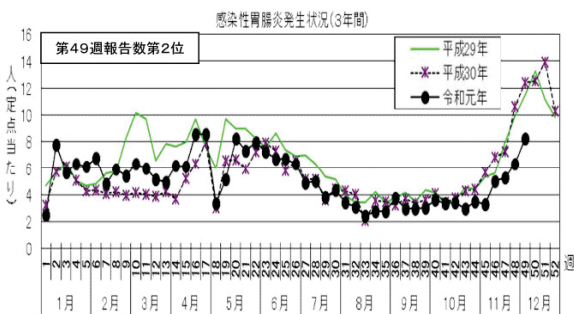
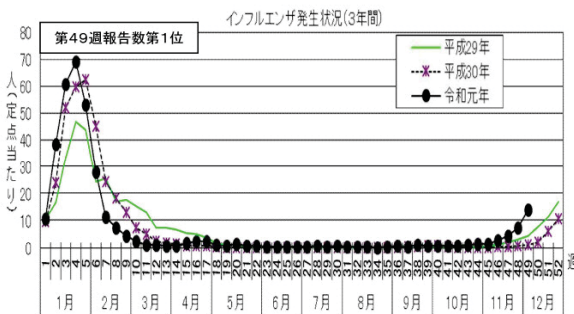
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年12月2日(月)～令和元年12月8日(日)〔令和元年第49週〕の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は14.08人と前週(7.36人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.24人と前週(6.30人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.62人と前週(5.05人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

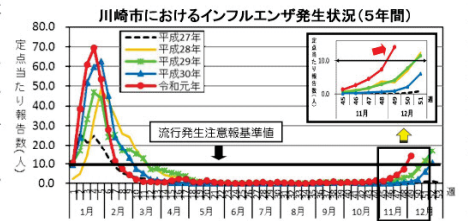


インフルエンザ流行発生注意報発令！

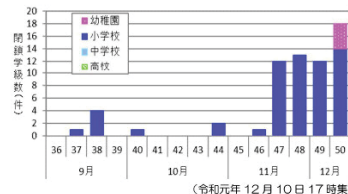
川崎市では、令和元年第49週(12月2日～12月8日)のインフルエンザの定点当たり患者報告数が14.08人となり、流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を超えたため、市内に流行発生注意報を発令しました。

本市のリアルタイムサーベイランスによると、現在、A型インフルエンザの流行がみられており、健康安全研究所に搬入された検体のほとんどからAH1pdm09型が検出されています。また、市内ではインフルエンザによる学級閉鎖の報告も増えています。

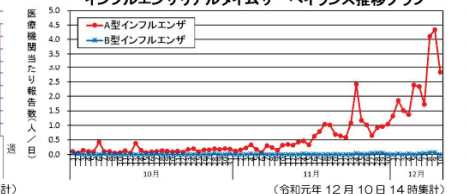
咳エチケットや手洗いなどの予防対策を心がけましょう。



川崎市内の学校等における学級閉鎖等実施状況



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS) インフルエンザリアルタイムサーベイランス推移グラフ



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年12月9日（月）～令和元年12月15日（日）〔令和元年第50週〕の感染症発生状況

第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は22.31人と前週（14.08人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.92人と前週（8.24人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.22人と前週（4.62人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

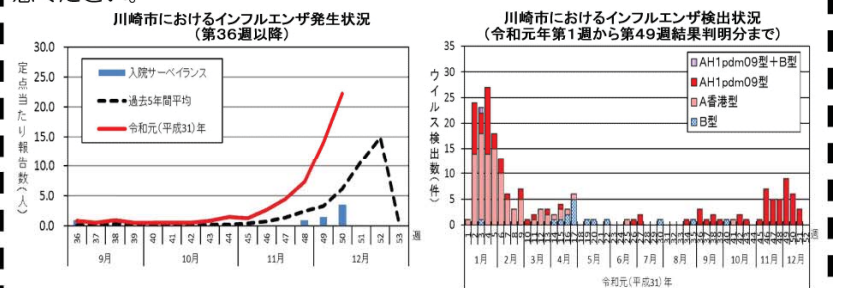
インフルエンザウイルス
★インフルーくん★



インフルエンザの報告数が急増しています！

川崎市では、令和元年第50週（12月9日～12月15日）のインフルエンザの定点当たり患者報告数が22.31人となり、前週（14.08人）から急増しています。

流行開始となった第44週（10月28日～11月3日）以降に、健康安全研究所に搬入されたインフルエンザの検体からは、すべてAH1pdm09型（2009年に流行した型）のインフルエンザウイルスが検出されています。同じ型による2009年の流行時には、重症肺炎や脳炎・脳症などの重症合併症の報告がみられました。気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患や免疫不全の方、妊婦の方は特に重症化のリスクが高いため、御注意ください。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年12月16日（月）～令和元年12月22日（日）〔令和元年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は28.36人と前週（22.31人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.68人と前週（6.92人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（5.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎の報告数が徐々に増加しています！

感染性胃腸炎の原因はウイルスや細菌など様々ですが、特に冬季はノロウイルスを原因とする患者数が増加し、例年秋から冬にかけて患者報告数がピークを迎えます。川崎市では、今年は例年に比べて低いレベルで推移していますが、令和元年第51週（12月16日～12月22日）の感染性胃腸炎の定点当たり報告数が9.68人となり、前週（6.92人）から増加しています。

市内の保育園で集団発生もみられ、学校・保育園等欠席者サーベイランス情報によると、嘔気・嘔吐で欠席する保育園児が多く報告されています。手洗いの徹底を心がけましょう。

正しい手の洗い方

流水でよく手をぬらした後に、石けんをつけ、手のひらをよくすりやします。

手の甲をのぼすようにこすりやします。

指先・爪の間を念入りにこすりやします。

指の間を洗います。

親指と手のひらをわじり洗います。

手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

厚生労働省作成ポスター「手洗いポスター」より抜粋

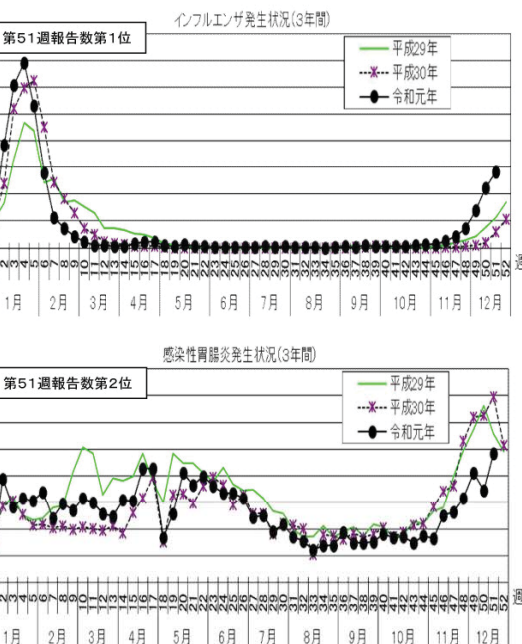
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年12月16日（月）～令和元年12月22日（日）〔令和元年第51週〕の感染症発生状況

第51週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は28.36人と前週（22.31人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.68人と前週（6.92人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（5.22人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



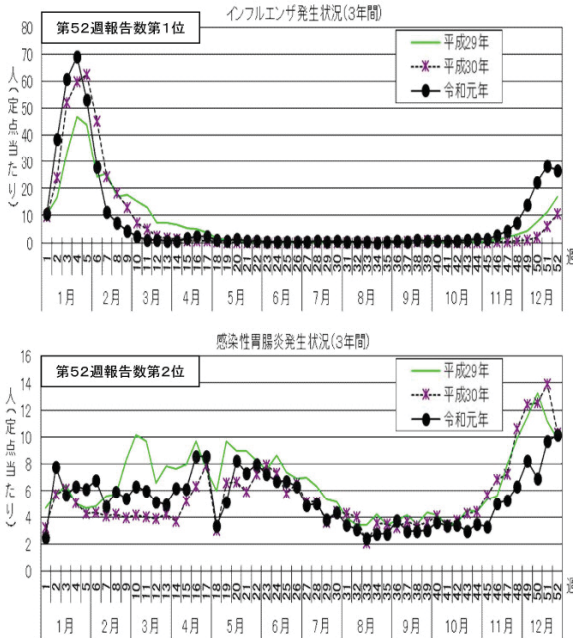
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年12月23日(月)～令和元年12月29日(日)〔令和元年第52週〕の感染症発生状況

第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は26.59人と前週(28.36人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は10.14人と前週(9.68人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週(5.11人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



海外旅行後の体調の変化に御注意ください！

年末年始を海外で過ごされた方も多いかと思います。渡航中は、環境の変化などから体調を崩される方も多く、海外旅行に行った方の半数以上が旅行先で消化器症状を呈したり、発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられるといわれています。帰国後、体調不良を感じた際は早めに医療機関を受診するとともに、症状だけでなく渡航先や滞在期間なども必ず伝えましょう。

なお、国内では依然としてインフルエンザが流行しています。咳エチケットや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

中華人民共和国湖北省武漢市における原因不明肺炎の発生について

令和元年12月以降、中華人民共和国湖北省武漢市において、原因不明の肺炎が複数報告されています。

現時点では医療従事者の感染や死亡例の報告はありませんが、特に武漢市に滞在歴のある方は、帰国後数週間は健康状態を観察し、呼吸器症状がみられる場合は、マスクの着用や咳エチケットなど十分な注意をして医療機関を受診してください。



海外で注意しなければいけない感染症

【発熱をきたす感染症】

麻疹、風しん、デング熱、マラリア、チクングニア熱など

発熱が続くなど全身状態が悪い場合は重症化の可能性もあります。

【発疹をきたす感染症】

麻疹、風しん、デング熱、チクングニア熱など

かゆみを伴うものはアレルギーの可能性もあります。

【下痢をきたす感染症】

細菌性赤痢、腸チフス、コレラなど

激しい腹痛や血便等がみられる際は特に御注意ください。

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター (福祉事務所・保健所支所)

(問い合わせ先) 044-276-8250

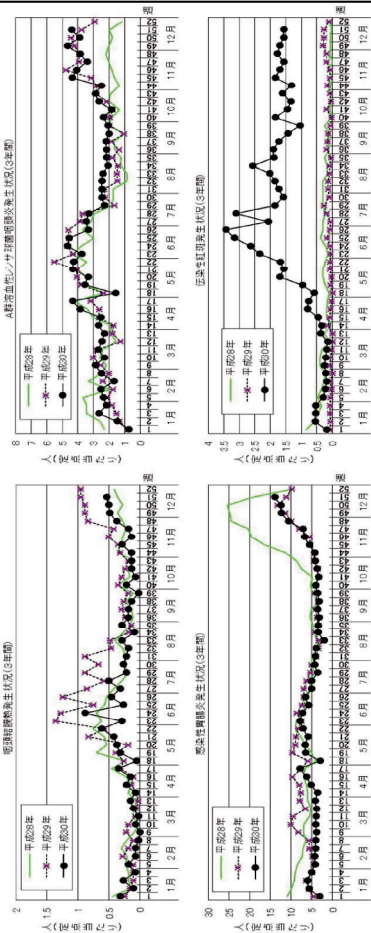
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(平成31年1月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- 咽頭結膜熱
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 感染性胃腸炎
- 伝染性紅斑

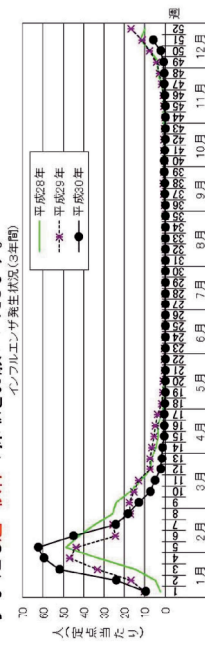


優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患
 RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

平成31年1月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

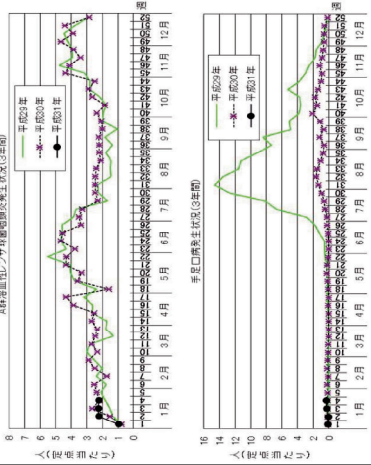
小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(平成31年2月)

小児科病原体定点対象疾患

今月の優先採取疾患は次のとおりです。

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 感染性胃腸炎
- 手足口病

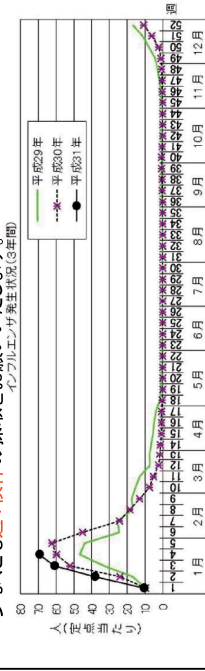


優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患
 RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

平成31年2月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。



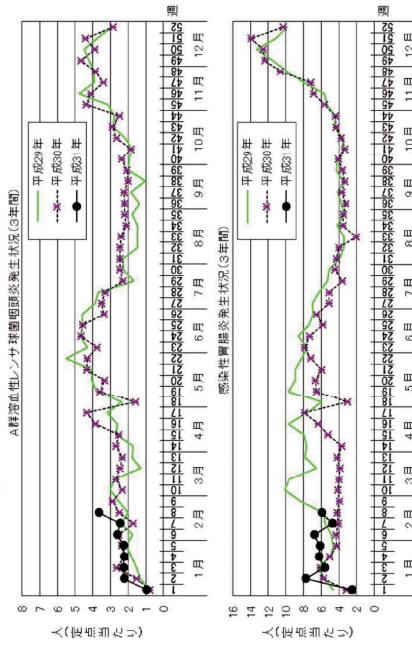
検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(平成31年3月)

小児科病原体定点対象疾患

- 今月の優先採取疾患は次のとおりです。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
 - 感染性胃腸炎

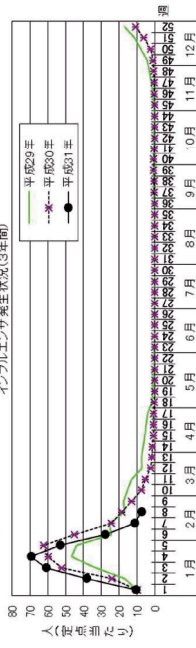


優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれより少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患
RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

平成31年3月1日現在、**流行期**です。
少なくとも**週1検体**の採取をお願いします。
インフルエンザ発生状況(3年間)



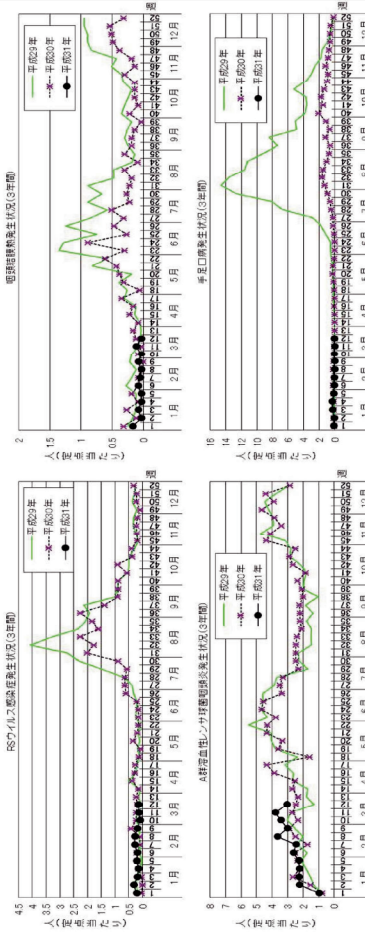
検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。

小児科病原体定点医療機関の皆様

優先採取疾患のお知らせ(平成31年4月)

小児科病原体定点対象疾患

- 今月の優先採取疾患は次のとおりです。
- RSウイルス感染症
 - 咽頭結膜熱
 - A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
 - 手足口病



優先採取疾患を中心に、毎月概ね4症例からそれより少なくとも1種類の検体採取をお願いします。

対象疾患
RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

インフルエンザ

平成31年4月1日現在、**非流行期**です。
少なくとも**月1検体**の採取をお願いします。
インフルエンザ発生状況(3年間)



検体採取後は、各保健所支所まで御連絡ください。